

こすもすカレッジジュニア新松戸教室

保護者評価表

職員評価表

自己評価総括表

公表日 2026年3月31日

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	20	5		3			
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	22	3		3	配置数を知りません。 送迎で会う職員さんしか知らないでスタッフ一 覧をいただけるとうれしいです。	今後適切な職員を配置してまいります。 送迎や面談にてご挨拶できればと思います。ご意 見をいただきありがとうございます。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構成された環境になっていると思いますか。また、事業所の設 備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いま すか。	19	7		2	面談の時しか行く機会がないのでそういった視点 で見てください。 教室へ上がる階段が少し急に感じます。	安全に階段の昇り降りができるよう職員が気をつ けてまいります。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合 わせた空間となっていると思いますか。	26			2	幼稚園～中学生まで一緒に過ごす場所なので工夫 を知りたいです。 照明が暗いと感じることもありますが感覚過敏の お子さんにはちょうど良いのかもしれません。	自由時間にはそれぞれ好きなことを見つけて楽し めるよう職員からも声掛けをしています。照明に ついてご意見いただきありがとうございます。	
適切 な支 援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いま すか。	25	1		2	面談で子どもの成長があれば教えていただけたら 励みになります。	面談や送迎時、連絡帳でお子様の様子や変化をお 伝えしていきたいと思っています。	
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	27			1	ローマ字が苦手なのでパソコンタイピングを楽し く見られると嬉しいです。	今後もそれぞれのニーズに応じた支援をしてい きたいです。	
	7 こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デ イサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	27	1					
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等サービスガイドラインの「放課後等サービスの提 供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に 必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	25	2		1			
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	27	1					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	27			1	色々企画していただき、普段できない体験ができ るのでとてもありがたいです。		
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	8	6	7	7			
	保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありました か。	28					
		13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	28					
		14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族も参加できる 研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	11	7	2	8	ペアトレの機会があればぜひ参加したいです。	今後こどもサレジでできることを検討し進め ていきたいと思っています。
		15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができてい ると思いますか。	21	5	1	1		
16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。		25	2		1	連絡帳で子どもの気になることを書くことで アドバイスが返ってくるので安心しています。		
17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。		25	3			職員さんによります。	子ども達に安心して利用していただけるよう職員 一円、支援や対応について意識の共有、研修の機 会を設けてより良い支援につなげてまいります。	
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、 家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の 交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。		7	5	5	11	子どもからのリクエストで以前実施された親子祭 りをやってみようと思っています。	リクエストありがとうございます。職員でいた いたリクエストを共有し実現できるよう努めてま いります。	
19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護 者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切 に対応されていますか。		24	1		3			
20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。		25	2		1			
21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自 己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。		24			4			
22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	27			1	別のご家庭の書類が入っていたことがありその際 の対応に不安を覚えました。	この度は大変申し訳ありませんでした。今後同じ ことが起こらないよう改善を図ります。		
非 常 時 等 の 対 応	23 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル 等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されています か。	20	2	1	5	学級閉鎖の対応について管理者さんも把握してい ないことがあったので支援職に在籍している子の 想定が不十分だと感じました。	感染症への対応等について改めて確認してまい ります。ご不安な思いをさせてしまい申し訳あり ませんでした。	
	24 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	17	2		9			
	25 事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行わ れた上で支援が行われていると思いますか。	25			3			
	26 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等 について説明がされていると思いますか。	22	1		5			
満 足 度	27 こどもは安心感をもって通所していますか。	28				子どもにとって居場所のひとつになっています。 職員さんとも話しやすいと言っています。 気の合うお友達もできて通所を楽しみにしてい ます。		
	28 こどもは通所を楽しみにしていますか。	27	1			おをつけたくらいこどもに行くことを楽しみに しています。		
	29 事業所の支援に満足していますか。	27	1			一度も行きたくないと言ったことがありません。 今後もよろしくお願ひします。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	1		曜日や利用者数によりバツつきがあります。職員の配置数が適切でも見きれていないこともあります。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	2		事業所が2階にあり階段を使用するためバリアフリーではありません。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	1		パソコンを使う際にコメントが足りず配線が転びそうになることがあるため注意しています。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1		教室の構造上、完全に仕切りのあるようなグループワークをする場所がありません。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参加しているか。	7			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1		非常勤職員を含めた全員に行き渡っていないと感じることがあります。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	1		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	7			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等サービス計画を作成しているか。	7			
	13	放課後等サービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7			
	14	放課後等サービス計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7			
	16	放課後等サービス計画には、放課後等サービスガイドラインの「放課後等サービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等サービス計画を作成し、支援が行われているか。	7			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	1		非常勤職員含めて共有できていないこともあります。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等サービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
	24	放課後等サービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定を育むための支援を行っているか。	7			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参加しているか。	6	1		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1		
	28	学校との情報共有（年頭計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	2		
	30	学校を卒業し、放課後等サービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	2		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を回り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	1		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	2		

関係機関や保護者との連携	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	5	2		
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	2		
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点も踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	1		
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	42	定期的に通信等を行うことや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	2		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	1		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討しているか。	7			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7			

○事業所名	放課後等デイサービスこすもすカレッジジュニア新松戸教室		
○保護者評価実施期間	2026年2月1日 ~ 2026年2月28日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42	(回答者数) 28
○従業員評価実施期間	2026年2月1日 ~ 2026年2月28日		
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月26日		

○分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意図的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	カリキュラムを固定化せず、利用者様一人一人の課題やニーズに応じてプログラムを作成していること。	各曜日ごとに多様な活動を提供できるよう、季節や行事に合わせてカリキュラムを作成し、個別の成長を促進していること。	今後も保護者様や子ども達のリクエストを募り多様な活動を提供できるよう企画していく。他教室と情報共有し、好評だった活動を目教室でも取り入れたい。
2	保護者様や利用者様のご要望を積極的に取り入れ、カリキュラムの作成に反映させていること。	利用者様にとって意味のある支援を行い、信頼関係の構築にも取り組んでいること。また、心理指導担当の意見も落とし込み、一人一人の課題を意図しカリキュラム作成や余暇の時間に対応できる内容を職員間で話し合い、共有していること。	年に数回、保護者参加型のイベントを企画しており、利用者様が楽しんでいる姿を直接見る機会を設けている。利用者様の楽しみだけでなく、保護者様同士の親睦や情報交換の場ともなり、コミュニティの形成を図っていること。
3	利用者様の状況を保護者様に伝え、発達状況や課題について共通理解が出来ていること。	保護者様へのお伝え方法を連絡帳だけでなく、送迎時やメールなどを利用しその日の様子を伝えていくこと。また、保護者様とのコミュニケーションを通じて、双方の理解を深められるよう取り組んでいること。	職員全員がご利用者様の課題を理解するために、毎朝の職員会議で振り返りを行い、一人一人の課題や取り組み内容を話し合い、より良いサービスの提供や一貫した支援が提供できるよう、定期的な勉強会に参加し職員間の支援向上に取り組んでいること。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常災害を想定した避難訓練を定期的に行っているが、保護者様へ十分な周知が出来ていないこと。	避難訓練は定期的に行っているが、周知が十分でないため実施報告が後手となってしまった。	SNSや連絡帳を積極的に活用し改善していく。 また、保護者様へ訓練の様子や内容についても情報を共有する。利用者様にはカリキュラムの中で、災害について繰り返し授業を行い、発生時に行動出来るよう取り組んでいく。
2	利用者様一人ひとりに個別対応をおこなうためには、専門知識を持つスタッフの確保が必要だが、スタッフの確保や余力が十分でないため、時折運営に影響が出ることがある。	限られた人員で運営しているため、新たな人材を育成する時間が十分にとれないことがある。	新人スタッフに限らず基礎知識をつける研修は定期的に行っているが、経験豊富な外部講師を招き短期間で効果的な研修を行い全体のスキル向上を図っていく。また、他のデイサービスとの連携を強化し情報交換を行い運営の質向上を目指していく。
3	地域の場の活用や地域住民(子ども)との関わり	土曜日や長期休暇には地域のイベントへの参加や公共施設、公園、店舗の利用等、地域との交流が図れているが、保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会を提供することが難しいこと。	地域の保育所や認定こども園、幼稚園等との関係性を構築し交流の機会を設けていく。また、地域のボランティア団体などの受け入れを行っていく。